

安城市内景況調査結果 (2026年1月～3月)

1. 調査対象 会議所役員・会員事業所 102企業
2. 調査対象時期 2026年1～3月期
(1)前年同期(2025年1～3月)と比べた今期の状況
(2)今期と比べた来期(2026年4～6月)の先行き見通し

3. 企業数内訳

	製造業	小売・卸業	建設業	サービス業	その他	計
企業数	21	26	24	21	10	102
構成比	20.6%	25.5%	23.5%	20.6%	9.8%	100%

	前年同期比 (前回)	前年同期比 (今回)	来期の 見通し
業況判断	1.0	△12.7	△27.3
売上高	△5.0	△9.9	△21.2
売上単価	3.1	△3.0	△12.2
資金繰り	△8.2	△11.0	△21.4
借入難度	△6.5	△8.4	△12.8
収益状況	△6.1	△16.0	△35.0
雇用人員	△18.4	△12.0	△14.4

調査結果の総括

今期の業況DIは前回から13.7ポイント低下。製造業の底堅さが見られる一方、非製造業ではコスト増と人手不足が収益を圧迫し、先行きの不透明感が残る。

		全産業											
		製造業		小売・卸業		建設業		サービス業		その他			
前年同期対比	業況判断	△12.7	▲	△4.8	▶	△3.8	▶	△25.0	▲	△14.3	▲	△20.0	▲
	売上高	△9.9	▶	△9.5	▶	8.0	▶	△16.7	▲	△19.0	▲	△20.0	▲
	売上単価	△3.0	▶	9.5	▶	4.0	▶	△25.0	▲	0.0	▶	0.0	▶
	資金繰り	△11.0	▲	△9.5	▶	△8.3	▶	△4.2	▶	△28.6	▲	0.0	▶
	借入難度	△8.4	▶	△14.3	▲	△4.5	▶	0.0	▶	△16.7	▲	△10.0	▶
	収益状況	△16.0	▲	0.0	▶	0.0	▶	△31.8	▼	△33.3	▼	△20.0	▲
	雇用人員	△12.0	▲	△23.8	▲	△8.3	▶	△16.7	▲	△4.8	▶	0.0	▶
来期の見通し	業況判断	△27.3	▲	△15.0	▲	△12.5	▲	△62.5	▼	△19.0	▲	△20.0	▲
	売上高	△21.2	▲	△14.3	▲	△12.5	▲	△41.7	▼	△20.0	▲	△10.0	▶
	売上単価	△12.2	▲	14.3	◀	△8.3	▶	△54.2	▼	0.0	▶	0.0	▶
	資金繰り	△21.4	▲	△14.3	▲	△27.3	▲	△20.8	▲	△28.6	▲	△10.0	▶
	借入難度	△12.8	▲	△19.0	▲	△9.5	▶	△8.3	▶	△16.7	▲	△10.0	▶
	収益状況	△35.0	▼	△23.8	▲	△33.3	▼	△50.0	▼	△42.9	▼	△10.0	▶
	雇用人員	△14.4	▲	△5.0	▶	△18.2	▲	△25.0	▲	△14.3	▲	0.0	▶

【業種別の顕著な特徴】

- 製造業:非製造業よりは安定しており、底堅い推移を見せている。
- 卸売・小売業:消費マインドの停滞や仕入れコストの上昇が利益を圧迫しており、慎重な判断が続いている。
- 建設業:人件費および資材価格の高騰が収益を圧迫し、採算確保が経営上の重要課題となっている。

【今後の展望と課題】

- 深刻な労働力不足:全業種の雇用人員DIが示す通り、採用難と人件費増が事業継続の最大リスクになりつつある。
- 収益力の脆弱性:来期予測も依然として厳しく、付加価値の向上や価格転嫁の実施が収益改善の鍵を握る。
- 先行きへの警戒:年度末に向けた需要動向を受け、将来の見通しに対しては引き続き慎重な姿勢が強い。

*DIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(好転、やや好転)した企業割合から、「減少」(やや悪化、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上で「増加」25%、「不変」60%、「減少」15%の場合のDIは、25-15=10となる。